

「障害者」「障がい者」「障害者」

フジワラ タダシ

ちかごろ、「障害者」という表記を「障がい者」にあらためるウゴキが自治体や福祉団体をはじめサマザマな方面でひろがってきた。「害」という字がマイナスのイメージをもつため、ヒラガナにかえたものである。

しかし、これに反対するヒトたちもいる。いわく、「ヒラガナがきの『がい』には、意味がない。」「この『がい』とはなにか、ときかれたら、『害』だとこたえるしかないからおなじこと。」と。

ナンセンスな主張である。このバアイ、タシカに「がい」だけでは意味をもたないがそれは、「しょうがいしゃ」というコトバの一部をぬきだしただけだからである。「しょうがいしゃ」というコトバをしていれば、「障がい者」で十分意味は通じる。また、もとの漢字はなにかとわれることも普通はないことだろう。

こういうヒトたちは、概して漢字がダイスキでマゼガキ(交ぜ書き)がゆるせないのである。だから、『『障害者』がよくないなら、『障害者』にしろ。』などとのたまう。そして、『『碍』を常用漢字にくわえろ。』、「当用漢字による漢字制限によって『碍』という字がつかえなくなり、『害』を代用したことがこの問題をひきおこした原因だ。」と主張する。しかし、これはマチガイ(そうでなければウソ)である。「障害」も「障碍」も戦前からつかわれていたし、一方、「障害者」、「障碍者」というイイカタはなかった。

ワレワレのチチバからいえば、漢字語ではなく、ヤマトコトバをつかえばよいのだといたいところであるが、障害者をしめすヤマトコトバは

ことごとく「差別語」のレッテルを はられ、「言葉狩り」の 対象に なって しまった。

デリケートな 問題で あるので、具体的な 解決策を ここでは 提案しない。ただ、ワタシは「障がい者」が 最善の ものとは おもわないが、わるい ものとも おもわない。マゼガキが みぐるしいと いうのなら「しょうがい者」が よい だろう。

(2010/03/31)

カナモジカイ 機関誌「カナノヒカリ」947ゴウ（2010ネン ハル）から
（一部 かきあらためた。）

[トップページ](#) > [カナモジカイの主張](#) / [カナノヒカリ](#)